

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
病理細胞検査学実習Ⅱ	2年次	必修	実習	1単位（45時間）	星野 ちなみ ※
授 業 概 要					
<p>病理細胞検査は、病気の最終診断、治療方針の決定、患者予後推定などに関わる分野である。正確な病理診断がなされるためには、優れた病理組織標本が必須となる。この実習では、病理組織染色の基本染色であるH・E染色と各種特殊染色法の実技を身に付け、顕微鏡観察を行い、標本の評価までの一連の標本作製過程を修得する。また、細胞診検査法を理解し、一連の細胞診標本作製過程を理解し、修得する。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・H・E染色を行い、病理組織標本を作製できる。</li> <li>・各種特殊染色標本を作製できる。</li> <li>・Papanicolaou染色標本を作製できる。</li> <li>・作製した標本を顕微鏡で観察し、染色結果の判定ができる。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
<p>星野ちなみ：病院での臨床経験を踏まえ、病理学的検査方法の標本作製方法、染色の方法について実技を概説する。</p>					
回	学 習 内 容				担当教員
1-2	<u>組織診検査法</u> ヘマトキシリン・エオジン染色、染色結果の評価と観察				星野 ちなみ ※
3-16	<u>特殊染色</u> 膠原線維の染色、弾性線維の染色、細網線維の染色、多糖類の染色、組織内無機物質の染色、神経組織の染色、染色結果の評価と観察				
17-19	免疫組織化学染色、染色結果の評価と観察				
20-23	<u>細胞診検査法</u> 細胞診標本作製法、検体の観察と処理・保存、Papanicolaou染色、染色結果の評価と観察				
学 習 方 法					
<p>事前に教科書及び配付資料を読んでおくと、理解が一層深まる。また、本実習は各項目の知識・技術を積み重ねて修得する必要があるため、事前説明に遅刻や実習を欠席した場合は以降の実習の出席を認めないことがある。なお、欠席の場合は事前に科目担当者に了承を得る必要があり、無断で欠席した場合は以降の出席を認めないことがある。</p>					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習修了試験＜実技試験を含む＞（70%）及び実習ノート＜課題標本＞（30%）により評価する。</li> <li>・レポートはレポート評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。</li> <li>・再試験ではレポートの再評価はしない。</li> <li>・やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行うことがある。</li> </ul>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕            臨床検査学講座 病理学／病理検査学 松原 修 他 医歯薬出版株式会社</p> <p>〔資料〕            配付資料</p>					